

日時・場所	平成29年3月27日（月） 8時45分～ 庁議室
出席者	山仲市長、川端教育長、立入議会事務局長、寺田政策調整部長、大藤政策調整部政策監、遠藤総務部長、上田市民部長、瀬川健康福祉部長、辻村健康福祉部政策監、小山都市建設部長、白井環境経済部長、藤池教育部長、野玉会計管理者、服部広報秘書課長、事務局（企画調整課）

1. 市長指示事項

- ・ 本日が今年度最後の部長会議となる。一年間、市行政のために尽力いただき、改めて感謝申し上げます。
- ・ 部長会議終了後、人事異動の内示を発表する。担当課で最大限良い人事をしてもらっているが、すべての職員の希望がかなえられるわけではない。市の組織の中で、各職員が各部署で最大限の力を発揮してもらえようという人事異動になっていると思うので、幹部職員は各職員の能力がフルに発揮できて、市民のためのまちづくりが進められるように、新たな年度に向けて取り組むこと。当然、退職者も再任用の職員も同様に、各部署であるいは市民になってもまちづくりのために活躍をしていただきたい。
- ・ 先週の金曜日に、議会定例会が終了した。議案はほぼ認められたが、市民病院整備関連の予算が実質否決された。条例は成立しているのに、4月から病院整備事業を実施するための予算であったが否決された。意味が分からず、深刻なことである。条例は議会で議決されたので、病院整備事業を進めることは、議会としても市民への約束であり責務である。それをあえて壊したということは重大なことであり、可否同数となり議長の採決により否決されたということはもう一段深刻なことである。議長は立場上、会派の一員ではないはずであり、条例があって予算を組むので、本来は水が低きに流れるように自然に通るはずである。非常に深刻な状況であることを共通認識しておくこと。
主たる反対の理由は市民コンセンサスであり、それ以外の財政の問題や市長の責任は論外だと考えている。ただ、市民のコンセンサスも疑問であり、本来コンセンサスを得るのは議会である。市ではこれまでも市民へ情報提供を繰り返し、検討会や評価委員会等はすべて公開しているし、関連データもすべて公表している。その上で、代表制民主主義として議会審議に委ねてきた。しかし、とどのつまりは市民コンセンサスを得るべきということである。そんなことであれば議会は必要ない。あえて次のとるべき手段があるとすれば、本市の場合は早い段階から住民投票条例を設けているので、それにより市民コンセンサスを得るしかない。これまで、住民投票は多大な経費がかかり無駄であり、意味が無いものとしていたが、このような状況であれば、仕方なく予算案が認められれば、できるだけ速やかに住民投票に付す方向で進めたいと考えている。市民病院整備は専門的議論が必要なので議会審議に供している中で、○か×かの住民投票がふさわしいかどうかの問題はあるが、現時点では、住民投票に付すという方針で共通理解を持っておくこと。

2. 報告事項

なし。

3. 協議事項

なし。

4. その他伝達事項

- ・ 3月25日（土）午前10時より、市民活動支援センターホールにおいて、まちづくり市民懇談会を開催した。参加者は約50名であった。今年度実施したフォーラムをはじめとする地方創生関連事業の総括、それを受けて、野洲市が今後どのようなまちづくりを進めていけばよいのかについて提言をいただくことを目的に実施した。基調講演では同志社大学の新川先生からご講演いただき、その後、各方面からパネリストを招き、会場の皆様からのご意見等も交え、意見交換をしていただいた。ご意見等をこれからのまちづくりに生かしていく。

5. 次回部長会議

4月3日（月） 10時30分～ 庁議室